

研究代表者から

青森公立大学

准教授 丹藤永也

地域教材に託す思い

2020年3月。3年越しでようやくこの青森県版小学校英語読み聞かせ教材『AOMORI Picture Book』の完成に漕ぎ着けました。『佐々木多門物語』、『AOMORI Stories』に続き、3作目の地域教材となります。

英語の地域教材は英語を通して地域を学び、地域を愛し誇りに思う心情を涵養するものであると思います。これまで読み物や資料が中心で主にリーディング能力を育成するものでしたが、これからはICTやSNSを活用した発信型・交流型の教材の開発が待たれます。本教材もDVDから絵や文字をスクリーンに投影して活用する形になっており、スクリプトには音声も付けました。さらに指導資料として紙媒体の冊子も作成しております。

この『AOMORI Picture Book』は、文部科学省『We can!』にある読み聞かせ教材「STORY Time」を分析し、そのフォーマットに倣っています。10のトピックをそれぞれ1枚絵で表し、ターゲットとなる表現もスクリプトとして書き表し、文字のインプットができるようになっています。絵には多くの情報を盛り込んでおり、教員は読み聞かせに加え、児童と豊かなインタラクション（small talk）も行うことができます

小学校では新学習指導要領がこの4月から完全実施され、中学年では外国語活動が、高学年では教科としての外国語科（とともに原則英語）が始まります。本教材は外国語科の授業の中で、補助的な教材として活用してもらえばと考えています。

そして、本教材を活用することで、本県の小学生がふるさと青森を誇りに思い、世界に向け青森を発信する英語力の素地を身に付けてくれればと思います。地域教材の意義はまさにここにあると考えます。外国人とコミュニケーションを図る上で大事なのは、英語を上手に話すことだけでなく、日本人としてのアイデンティティを持って自分を語ることだと思います。これは今後、日本が国際社会の中で生き抜くために必要不可欠な資質の1つだと言えます。観光パンフレットのように情報をただ伝えるだけでなく、ふるさとを愛する自分の「思い」も英語で伝えることのできる資質・能力を、この『AOMORI Picture Book』を通して育てることができればと願っています。

本教材の作成にあたり、多くの方々からご協力を賜りました。絵は平川市立尾上中学校美術教師、大久保眞樹先生が描いてくださいました。大変なご苦労をおかけしました。またHeroのイラスト使用許可をいただくのにあたり、私の弘前高校の先輩である川口淳一郎先生は国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）利岡加奈子様、棟方志功氏は棟方良様、太宰治氏は田村茂写真事務所田村眞生様、柴崎岳選手は野辺地町役場佐々木理恵子様とマネージャーの株式会社UDN SPORTS 伴野力哉様、ゆるキャラのつゆヤキソバンは宮崎晴二様に、それぞれご尽力いただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

皆様におかれましては、この教材をご覧いただき、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。今後も青森の英語教育に微力ながら協力できるよう努めてまいります。

なお、本教材は、2019年度青森公立大学戦略的研究助成を受けて制作されております。ここに関係各位に対し深い感謝の意を表します。